

製本のススメ

Vol. 31

残暑厳しい毎日ですね、しかし 今年には地震の影響も有り、例年にもまして電力が不足だそうです。温暖化は刻々と進んでいるようで、自分勝手に暮らしてきた人間の生活も、自然界と共存の方向へ改めないといけませんね。

今回は**頁数の多い中綴じ**のお話

50 頁も超えるような厚い冊子によく起こるトラブルで、**小口の字切れ**があります。これは、紙の厚みを軽視した為に発生します。

中綴じ加工は 外側の折から内側の折へ入るにしたがって、左右の寸法が実寸で小さくなっています。紙の厚みにもよりますが、だいたいの**目安としては16頁1台分で1ミリ程度**です。これが何台も重なると3ミリくらいは、あっという間に変っていきます。したがって、本文のレイアウトをする時には、中心頁になるにつれ、小口寸法を小さくしていく必要があります。全部同じ版サイズでのレイアウトは禁物ですね。

特に小口側に見出しが有る場合や、切れてはいけないマークや名前等は、安全を確保する為に、仕上がり位置から、さらに5ミリ程 内側へ入れたレイアウトの方が安心です。

逆に表紙や 外側近くの折で小口まで絵柄や色がある場合は、それらを仕上位置よりも**外側(外トンボ以上)まで伸ばして**、印刷する必要があります。これは、本の厚み分だけ表紙等がたわみ、計算上の寸法に誤差が出る為で、小口字切れとは反対に、**小口側に白がでる**結果となります。

最近ではデータ支給という形で、印刷をされる事も多いでしょうが、一般の方々にはここまで理解できていない事も多く、製本で不具合が発覚し、客先への連絡が付かないなどで、納期遅れの原因になっています。



Teabreak

夏休みに郊外へ出かけると、夜空の星がまばゆい事に気付きますね。星の瞬きはロマンチックになれますが、さて何で瞬いているのでしょうか？

これは空気が暖められて動いているからで、暖められた空気はどんどん上へ動いて上がります。空気が動くと通過する光の進み方は乱れて景色がユラユラゆれる仕組みです。夏の暑い日に陽炎がみえるのと同じ現象なのです。だからってデートの最中に理論は禁物！「星が地球にウインクしてるんだね」と、夜空の会話は、お洒落にきめておかないと、嫌われちゃいますよ。

by (株) 井関製本